

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年10月30日

【評価実施概要】

事業所番号	0172901894		
法人名	株式会社 健康会		
事業所名	グループホームあけぼのⅡ		
所在地	旭川市曙2条6丁目1番1号 (電話) 0166-21-3513		
評価機関名	(有)ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成20年10月29日	評価確定日	平成20年12月5日

【情報提供票より】 (20年9月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年 10月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 14人 非常勤 2人 常勤換算 8.3人	

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1～2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費 550円/日	
			暖房費 200円/日(10～4月)	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	450 円	昼食	300 円
	夕食	550 円	おやつ	50 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(9月1日現在)

利用者人数	18名	男性	6名	女性	12名
要介護1	6名	要介護2	0名		
要介護3	5名	要介護4	5名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 84.7歳	最低	56歳	最高	96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	忠和クリニック くにもと病院 メイプル病院 ほんのぼの歯科
---------	-------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

近くに商店街があり、住宅街の中で普通の生活が実感できる立地条件が整っており、利便性も良く、生活しやすい建物構造となっている。母体が医療機関で、医療のバックアップ体制が整っており、利用者および家族は安心感を持っている。管理者および職員全員が協働し、利用者本位のケアの実践に向け懸命に努力を重ねており、穏やかで温かなホームとなっている。職員の真摯な姿勢と、介護サービスに関する質の向上への意識が非常に高く、今後期待が持てるホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の課題である、プライバシーの確保は、面会簿の書式改定、利用者の写真などの利用について同意書を作成し、利用者や家族の理解を得ている。そのほかの課題も職員全員で話し合いがもたれ、継続的課題として検討されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義やねらいを職員全員で理解し、職員の意見を管理者が総括して評価活動に取り組み、結果は職員に周知をしている。前回の外部評価の改善項目を踏まえ新たな気づきや改善点などを把握し、具体策を検討している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議では、ホームの役割についての説明やサービス実施状況の報告、近隣への災害時の協力依頼、市担当者から後期高齢者医療制度の説明などが行なわれ、地域住民・家族からの意見・提案が交わされている。運営推進会議で高齢者宅の除雪奉仕活動を提案し、地域と積極的に係わる努力をしている。運営法人とも連携を図り、ホームがより豊かに機能すべく会議の充実と定期開催実現に期待したい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	利用者の行事時や普段の写真を取り入れた広報誌を2～3ヵ月毎発行し、利用者の日常の様子を伝えている。また、毎月利用者一人ひとりの暮らしの様子と健康状態を伝えている。日頃から家族との交流を図り、気軽に意見・要望を話せるような雰囲気づくりに努めている。家族から意見や要望が出た際には、迅速に対応方法を協議し改善に努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	運営法人が主催するお祭りに地域住民の方々に参加いただき、地元との交流を深めるように努めている。除雪奉仕活動を行なう予定もあり、近隣住民との日常的な交流が図られるよう更なる働きかけを期待したい。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初の理念がホームの見やすいところに掲示され、職員全員に浸透し、理念を実践するため日夜努力されている。管理者および職員は、地域密着型サービスの主旨を認識しており、現在の理念の見直しを検討している。	○	地域との関係性を重視し、利用者の安心した暮らしを支えるため、現在の理念を基に地域や利用者のニーズにあったホーム独自の理念を作り上げることが期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は職員採用時に説明し、ミーティングなどを通して職員全員で共有し、話し合いや確認を行っている。ホーム内に掲示し、常に意識できるようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営法人が主催するお祭りに地域住民の方々が参加するなど、地元との交流を深めるようにしている。ホームへの認識と理解を高めていただくよう考えているが、近隣住民との日常的な交流が図られるまでには至っていない。	○	地域とのつきあいの重要性を管理者および職員も認識しており、地域でホームの存在や役割が更に理解され、交流が盛んになるよう、具体的な働きかけを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義やねらいを職員全員で理解し、職員の意見を管理者が総括して評価活動に取り組んでおり、結果は職員に周知をしている。前回外部評価の改善課題は職員全員で話し合いがもたれ、サービス向上を目指す前向きな姿勢が伺える。		

旭川市 グループホーム あけぼのⅡ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年6月と10月の2回の開催に留まっている。会議では、ホームの役割についての説明やサービス実施状況の報告、近隣への災害時の協力依頼、市担当者から後期高齢者医療制度の説明などが行なわれ、地域住民・家族からの意見・提案が交わされている。	○	地域の行事が少ないため、近隣住民への理解を得るには難しい状況にはあるが、運営推進会議で近隣の高齢者宅の除雪奉仕活動を提案し、地域と積極的に係わる努力をしている。運営法人とも連携を図り、ホームがより豊かに機能すべく会議の充実と定期開催実現に期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は管理者会議へ積極的に参加するとともに行政担当窓口で相談や情報収集に努め、ホーム運営に役立てよう取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	2～3ヵ月に1回広報誌を発行し、写真を多く取り入れ、利用者の日常の様子を伝えている。また、毎月お手紙に一人ひとりの暮らしぶりや健康状態、職員の異動、写真、金銭出納を郵送し、家族の安心を得ている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの要望などは、来訪した家族が気軽に話せるよう、職員が配慮しながら把握している。要望などがあつた際には、速やかに申し送りや会議で協議し、ケアサービスなどに反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員同士の十分な引き継ぎ、利用者へ説明、新任者の紹介を利用者一人ひとりに合わせて説明方法を工夫するなど、利用者の精神的負担の軽減に努めている。しかし、運営法人の事情により、同系列のグループホーム間で利用者の異動に伴い、職員の異動もあり、ゆとりあるケアについて人手不足が感じられる。	○	頻繁な職員交代は利用者、家族、職員の不安や不満を持ちやすい部分であるため、職員が定着するための具体的な取り組みや工夫をし、馴染みの職員が継続的に支える体制が望まれる。また利用者、家族、職員の不安緩和や事故防止の観点からも人員の増員がなされるよう期待したい。

旭川市 グループホーム あけぼのⅡ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人材育成の重要性を認識し、外部への研修参加費用などをホーム負担としている。職員一人ひとりの知識や経験に応じた外部研修に交替で参加し、職員間での共有化も図られている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、グループホーム協議会に加入し、ほかのグループホーム関係者と接触しながら、情報収集や意見交換を行なっているが、近隣のグループホームとの直接的な交流は行なわれておらず、また職員間の交流の機会がない。	○	ほかの業者との職員レベルでの相互の研修、症例報告などの学習会や交流の機会を設けて、サービスの質の向上や職員育成への取り組みを期待したい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に利用者や家族の方々と十分に面談を行ない、見学した後の入居となっている。信頼関係を築きながら、利用者や家族が安心して納得できるよう適切なサービス開始の調整を行なっている。同系列のホームから入所した利用者は、十分な事前情報を職員が伝え、馴染みの職員も異動するなど、利用者が混乱なくサービスを利用出来るよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者一人ひとりの経験や得意なことを見極め、活躍できる場面作りの支援が行なわれている。また、利用者一人ひとりのニーズの実現に向け、管理者、職員、利用者が一体となって支え合える関係を築こうと努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式のアセスメントシートを活用し、家族から生活歴や環境、家族構成などの情報を収集するとともに、把握が困難な利用者には、日々の言動や表情から思いや願いを読み取り、急がず時間をかけて理解するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員全員が毎日の記録を基にカンファレンスを行ない、状況把握に係わるなかで、ニーズの把握に努め日常のケアに活かせる取り組みが行なわれている。職員が意見を出し合いながら、介護サービス計画が作成され、作成した計画書は家族にも説明して了解を得て実施している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的に3か月に1度の見直しを行ない、利用者の状態に変化が生じた場合、利用者・家族と話し合い、かかりつけ医とも相談しながら、現状に合った見直しを行なっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の状況に応じた受診の支援、利用者の希望により、職員との個別対応の時間を設けて、外食や買物、馴染みの場所への外出などの支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携により健康チェックが毎週行なわれ、利用者の健康管理の支援をしている。利用者の希望により、かかりつけ医や他科受診の通院支援も行なっており、職員が通院介助をした際は受診結果などを記録し、家族に伝えている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の指針を作成し、利用者の入居時に利用者および家族に説明し、同意を得ている。また、重度化した場合は、利用者や家族の意向も尊重しながら、医療機関と連携し、職員でその都度話し合いを重ね、方針を共有して支援に繋げている。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の個人記録は適正に管理されており、職員は利用者の誇りや羞恥心に配慮しながら、日々のケアを行なっている。前回の評価で指摘された面会簿の書式改定も行なわれ、また利用者の写真などの使用について同意書を作成し、利用者や家族の了解を得ている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームとしての1日の基本的な流れや生活リズムへの配慮がされており、利用者の生活歴、体調やペースを大切にその人らしい生活を送れるよう努力しているが、業務に追われて職員主導のケアになりがちとの反省と改善の必要性を感じている。	○	職員体制を工夫して、可能な限り外出希望などに対応できるよう努力しているが、利用者の安全で自由なその人らしい生活を支えるためには、人手不足が感じられるため、人員の増員がなされるよう期待したい。

旭川市 グループホーム あけぼのⅡ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も利用者と同じ席に着き、会話を誘導するなど、和やかな食事の支援が行なわれている。食材を外部に発注しているため献立は決まっているが、利用者の状況に合わせた対応が行なわれている。月に1回利用者の希望を取り入れた食事など、変化をつけ楽しむ工夫をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回の入浴日を設け、利用者一人ひとりの習慣やペースで入浴ができるよう対応されている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	書類のシュレッダー、シール作成など、利用者の気持ちや力を活かす場面作りを行ない、充実感や達成感に配慮し支援をしている。家事など暮らしの中での役割や趣味のサポート、外出での気晴らし、楽しみごとなど利用者の視点に立ち、生活支援に取り組んでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買物、通院への付き添い、天候や利用者の希望に応じて身近な散歩など、日常的な外出支援が行なわれている。また利用者一人ひとりの希望を聞きながら、外食や遠方への外出支援も行なっている。一人で外出する利用者へは、周囲環境を整え、安全に留意しながら、出かけていただいているが、さらなる安全確保のための検討もされている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員全員が鍵をかけない安全な暮らしについて理解しており、日中は施錠していない。職員は外出傾向のある利用者を把握しており、外出する様子の時には、さりげない声かけや見守りが行なわれている。		

旭川市 グループホーム あけぼのⅡ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て防災訓練を実施しており、運営推進会議を通じ町内会長へ災害時の近隣の方々の協力要請を行なっている。しかし、利用者が参加しての防災訓練は行なわれていない。	○	利用者の安全をより確実なものとするためにも、利用者一人ひとりの具体的な避難誘導策などを検討し、また、夜間を想定した避難訓練など、不測に備える取り組みや災害時に備えた物品の準備が望まれる。また、指定の緊急避難場所を家族の方々に周知するよう期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材を外部業者に発注し、毎日の食事メニューが決まっており栄養バランス、カロリーは計算されている。利用者一人ひとりの嗜好を把握し、独自の調整も行なわれている。また、利用者の水分摂取量、食事量など記録され、職員が情報を共有している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は季節を感じることの出来る飾り付けが行なわれ、清潔でゆったりしており、利用者が居心地良く過ごせる空間となっている。温度・湿度の配慮もされており、音・光なども適宜調節されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者一人ひとりが使い慣れた馴染みの家具や装飾品・写真・仏壇などを持ち込み、利用者の希望に応じた生活ができるよう支援している。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。